

経済学専攻

QE（博士論文研究基礎力審査）を導入した世界標準のカリキュラムで 専門研究者、応用エコノミストを養成

経済学研究科は、1951年の創立以来、一流の教授陣のもと、多くの優れたエコノミスト、研究者を輩出してきました。1992年には他大学に先駆けて夜間社会人大学院を設置し、2003年には博士後期課程を昼夜開講制にするなど、常に時代や社会の新しいニーズに応え続けてきました。2014年度からは、多様化の進展とともに高度に専門化する21世紀のグローバル社会に対応できる人材養成をこれまで以上に推し進めるために、昼夜開講制の「修士(M.A.)プログラム」と「博士5年(Ph.D.)プログラム」に抜本的に制度変更し、より質の高い教育プログラムを提供していきます。2017年度より、「経済学研究科修士課程1年制コース」が設置されます。

■ 修士(M.A.)プログラム 昼夜開講制

「修士(M.A.)プログラム」は、経済学研究科修士課程の教育目標である「新しい経済社会を創り出す知性と意欲を持った『応用エコノミスト』や『高度職業人』、また生涯学習における『高度教養人』を養成する」ための修士課程プログラムです。プログラムの履修要件を満たし、修士論文を提出して口述試験に合格することで修士号が授与されます。

※修士(M.A.)プログラムでは、指導教員の指導・了解の下、「リサーチペーパー」をもって修士論文に代えることができます。その場合、34単位以上が修了要件となります。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)
教育目標に掲げる人材の資質に適合する、旺盛な勉学意欲と研究志向を併せ持つ人材の国内外、学部新卒・社会人からの受け入れ。	国際的に通用する質保証制度を伴った教育課程をコアに、修士課程の教育目標、ディプロマ・ポリシーの実現を目指す科目編成と教育内容・方法の実践。	各々の分野における「応用エコノミスト」「高度職業人」「高度教養人」としての経済学の研究基礎力と自立的研究能力の達成。


■ 修士(M.A.)プログラム 修了要件

導入科目群、基本科目群.....12単位以上
「論文指導Ⅰ」「論文指導Ⅱ」「修士ワークショップ」... 4単位以上
専門科目群..... 4単位以上
合計..... 30単位以上



研究室紹介

明城 聡 准教授



実証産業組織論、計量経済学

規制緩和による自由化は機能するのか？
ミクロ的視野に基づいた統計モデルが政策評価には不可欠

昨年度の電力市場に続き、2017年にはガスの小売市場も参入が自由化されます。明城ゼミでは競争政策の観点から規制産業での財・サービスについて効率的な資源配分が行われているのか、外部性を含めた政策評価を行っています。実証産業組織と呼ばれる研究領域ですが、ゲーム理論から導かれる理論モデルに企業や消費者のデータを当てはめる構造推定と呼ばれる統計手法を用いることで、理論と実証の両面から市場分析に取り組んでいます。研究に必要なスキルはミクロ経済学、計量経済学、プログラミング言語など多岐にわたりますが、ゼミでは更に論文を書く際の基本的な知識や技術についても学んでもらいたいと考えています。

Graduate School of Economics
Major in Economics

募集人員： 修士課程50名／博士後期課程10名
開講形態： 昼夜開講
キャンパス： 市ヶ谷（一部に多摩で開講される科目があります）
主な進路： 専門研究者（大学・シンクタンク）、金融、商社、製造、公務員など

■ 博士5年(Ph.D.)プログラム 昼夜開講制

「博士5年(Ph.D.)プログラム」は、経済学研究科博士後期課程の教育目標である「国際社会が直面する諸問題の解決に挑戦する意欲的な専門研究者養成」のための修士課程・博士後期課程5年一貫の教育プログラムです。プログラムの履修要件（修士課程分）を満たし「博士論文研究基礎力審査(QE)」に合格することで博士後期課程に進学し、研究プロジェクトと内外での研究発表・公表を進め、博士論文を執筆します。

※博士後期課程に進学と同時に修士号が授与されます。
※「修士1年制コース」では、1年で修士取得＋3年の博士後期課程で「博士4年プログラム」になります。

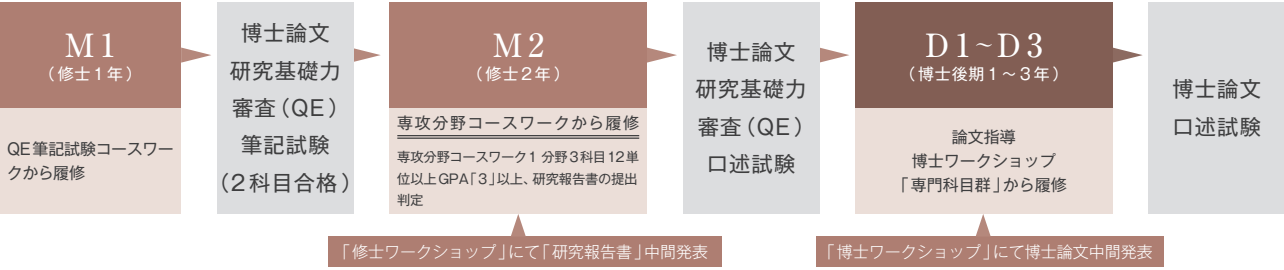
アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)
教育目標に掲げる国際社会に発信力のある専門研究者の資質に適合する、経済学に対する非常に旺盛な勉学意欲を持ち、経済学の諸分野についての強い研究志向を持つ人材の国内外、学部新卒、社会人からの受け入れ。	国際的に通用する質保証制度を伴った教育課程をコアに、先端的研究遂行能力を含めた博士後期課程の教育目標、ディプロマ・ポリシーの実現を目指す科目編成と教育内容・方法の実践。	国際社会に発信力のある新たな知的創造のために必要な研究遂行能力の達成。

■ 博士5年(Ph.D.)プログラム 修了要件

【修士課程】
導入科目群・基本科目群(QE筆記試験コースワークを含む) ... 12単位以上
専門科目群(専攻分野コースワーク) 12単位以上
修士課程合計 30単位以上

QE筆記試験(2科目)、QE口述試験の合格が、
修士課程修了と博士後期課程進学に必要なとなります。

【博士後期課程】
「論文指導Ⅲ～Ⅴ」「博士ワークショップⅠ～Ⅲ」 8単位以上
専門科目群 4単位以上
博士後期課程合計 16単位以上



経済学研究科博士後期課程修了者対象助教採用制度

博士号取得者には、経済学部助教採用(4年任期)の可能性がありますが。
※経済学部の採用枠内の募集によります。採用には教授会による審議・承認が必要となります。

STUDENT'S VOICE



博士後期課程 在学中

原 一樹

株式会社格付投資情報センター
格付本部 チーフアナリスト
2007年2月入社

諸外国のソプリンの信用リスク評価業務を通じて直面した疑問について、
経済学の理論を踏まえた研究を行うとともに、自分の専門性を高めたい

学んだこと、身に付いたこと

大学院では、ソプリンの信用リスクに対する市場の認識と財政及び政治過程の関係についての研究を行っています。これまでアナリストという視点で見てきた経済・財政面での問題を、より理論的に捉える思考力がついてきたことは大きなプラスです。特に仕事で専門家の方々と議論をすることもあり、そうした場面で、大学院で身に着けつつある思考力が大いに役立っています。

将来の目標

現在行っている研究を学術論文に投稿し、最終的には博士号を取得することが当面の目標となります。長期的には、仕事を通じて直面した疑問を理論的に研究する、また研究成果を実務に活かすといった形で、格付アナリストと研究を両立しながら自分の専門性を高めていきたいと思っています。

研究テーマ	ソプリンの信用リスクに対する市場の認識と財政及び政治過程の関係
-------	---------------------------------

経済学研究科

専任教員と主な担当科目（「研究指導科目」を除く）（2017年度）※年度により授業を持たない場合があります。

梅津 亮子 教授	専 攻：	管理会計、原価計算論
研究テーマ：	管理会計、コストマネジメントの諸問題について考察する	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

奥山 利幸 教授	専 攻：	理論経済学
研究テーマ：	景気・成長の動学・ミクロ・ゲーム理論分析	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

小沢 和浩 教授	専 攻：	情報処理論
研究テーマ：	ソフトコンピューティングによるデータ解析手法	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

河村 真 教授	専 攻：	産業組織論
研究テーマ：	産業やマクロ経済のデータを用いた統計学的分析	
担 当 科 目：	実証経済学基礎A、経済学基礎A	

岸 牧人 教授	専 攻：	監査論
研究テーマ：	企業財務と公認会計士監査	
担 当 科 目：	経済と会計B	

小林 克也 教授	専 攻：	地方財政論・ミクロ経済学の応用
研究テーマ：	政府間関係の分析や政府組織についての理論分析	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

酒井 正 教授	専 攻：	労働経済論
研究テーマ：	社会保障制度と就業との関係についての実証分析	
担 当 科 目：	労働経済学A/B	

佐藤 良一 教授	専 攻：	社会経済学
研究テーマ：	ラディカル派経済学の理論的展開過程を検討しつつ、新たな経済学の可能性を探る	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

菅 富美枝 教授	専 攻：	民法（契約法）、消費者法
研究テーマ：	契約当事者間における交渉力の格差や非良心的取引をめぐる法的諸問題の分析	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

菅原 琢磨 教授	専 攻：	経済政策、社会政策、医療経済
研究テーマ：	医療・福祉・介護政策、医療品・医療機器産業の分析	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

鈴木 豊 教授	専 攻：	契約理論、企業の理論、制度の契約理論分析
研究テーマ：	ガバナンスの比較セクター分析・ゲーム理論・契約理論によるアプローチ	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

竹口 圭輔 教授	専 攻：	財務会計論
研究テーマ：	ストック・オプションを中心とする株式報酬の会計	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

竹田 茂夫 教授	専 攻：	理論経済学
研究テーマ：	経済学の批判的検討・「法と経済学」	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

田村 晶子 教授	専 攻：	国際経済、マクロ経済学
研究テーマ：	国際経済の理論と実証分析	
担 当 科 目：	マクロ経済学A	

長原 豊 教授	専 攻：	経済史、日本経済史、経済理論、経済学方法論
研究テーマ：	日本経済史、経済理論、経済学方法論（「レント資本主義論」を主題にしています）	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

朴 侑玄 教授	専 攻：	都市地理学
研究テーマ：	文化産業と企業行動のグローバル化と国際的都市システム	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

絵所 秀紀 教授	専 攻：	開発経済論、インド経済論
研究テーマ：	発展途上国の経済開発と国際協力、インド経済分析	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

小黑 一正 教授	専 攻：	財政学、公共経済学
研究テーマ：	人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析	
担 当 科 目：	財政学A/B	

河村 哲二 教授	専 攻：	アメリカ経済論、世界経済論、理論経済学
研究テーマ：	現代アメリカ経済とそのグローバル・インバート・バックス・アメリカナの再編と転換	
担 当 科 目：	地域経済論Ⅰ A/B	

菊池 道樹 教授	専 攻：	中国経済論
研究テーマ：	中国経済の現状、成長要因の日中比較	
担 当 科 目：	地域経済論Ⅱ A・B	

後藤 浩子 教授	専 攻：	イギリス社会思想史
研究テーマ：	グローバリゼーションのもとの国民国家の変容	
担 当 科 目：	ジェンダー経済論A/B	

近藤 章夫 教授	専 攻：	経済地理学、地理情報システム論
研究テーマ：	都市・産業集積と経済発展、立地と分業の国際比較、イノベーションの空間経済分析	
担 当 科 目：	経済地理学A/B	

佐柄 信純 教授	専 攻：	数理経済学、函数解析学
研究テーマ：	最適成長論、協力ゲーム理論	
担 当 科 目：	ミクロ経済学B、応用ミクロ経済学B	

胥 鵬 教授	専 攻：	金融ファイナンス、法と経済学
研究テーマ：	企業金融、国際金融、企業統治	
担 当 科 目：	金融ファイナンス基礎A/B	

菅 幹雄 教授	専 攻：	経済統計
研究テーマ：	ビジネスレジスター、経済センサス、産業連関表	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

杉浦 未樹 教授	専 攻：	世界経済史
研究テーマ：	中近世都市における流通と消費	
担 当 科 目：	経済史B	

砂田 充 教授	専 攻：	経済学、企業経済論
研究テーマ：	産業組織論、企業経済学、応用ミクロ経済学	
担 当 科 目：	企業経済学A	

武田 浩一 教授	専 攻：	金融論
研究テーマ：	金融の応用ミクロ経済分析	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

武智 一貴 教授	専 攻：	国際経済学
研究テーマ：	距離と貿易コストの関係の実証分析	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

永岡 文庸 教授	専 攻：	経営者、企業戦略、知的財産権、新規事業
研究テーマ：	企業の成衰（成功と失敗の本質）	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

西澤 栄一郎 教授	専 攻：	環境政策論
研究テーマ：	欧米の環境政策、環境保全型農業・農村の構築	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

馬場 敏幸 教授	専 攻：	アジア経済、技術移転、技術経営、高等教育
研究テーマ：	アジアの発展と日本の役割、技術変遷が経済に与えたインパクトについて	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

Graduate School of Economics
Major in Economics

原 伸子 教授	専 攻：	社会経済学、経済学史
研究テーマ：	福祉国家の変容と家族、ジェンダーの政治経済学	
担 当 科 目：	社会経済学A/B、ジェンダー経済論A/B	

ブー・トウンカイ 教授	専 攻：	国際マクロ経済学の理論と実証
研究テーマ：	アジア諸国の経済成長、貿易、為替制度	
担 当 科 目：	国際金融論A/B	

松波 淳也 教授	専 攻：	環境経済学
研究テーマ：	循環型社会形成に向けた社会経済システム	
担 当 科 目：	環境経済論A/B	

宮脇 典彦 教授	専 攻：	経営統計学、経営科学、データ解析
研究テーマ：	経営分析と情報、統計学とその応用	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

山本 真鳥 教授	専 攻：	文化人類学、経済人類学
研究テーマ：	互酬性と市場交換—経済人類学のパースペクティヴ、グローバリゼーションと文化	
担 当 科 目：	ジェンダー経済論A/B	

渡部 亮 教授	専 攻：	国際ビジネス論、国際マーケティング論
研究テーマ：	国際ビジネスの基盤である法・貨幣・言語の研究、内外主要企業の研究	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

高橋 秀朋 准教授	専 攻：	ファイナンス
研究テーマ：	株式市場の効率性の検証、マーケット・マイクロストラクチャー	
担 当 科 目：	計量経済学B、実証経済学基礎B	

濱秋 純哉 准教授	専 攻：	公共経済学、応用計量経済学
研究テーマ：	社会保障、租税、労働分野のミクロ計量分析	
担 当 科 目：	※今年度は、特定の科目を担当しません	

明城 聡 准教授	専 攻：	公共経済学、応用計量経済学
研究テーマ：	社会保障、租税、労働分野のミクロ計量分析	
担 当 科 目：	計量経済学A、ミクロ計量分析A/B	

設置科目（2017年度）※開講科目は年度により異なります。（ ）内は単位数

【修士課程】	ジェンダー経済論A/B（各2） 法と経済学A/B（各2） 経済学史A/B（各2） 金融システム論A/B（各2） 財政学A/B（各2） 開発経済論A/B（各2） 地域経済論ⅠA/ⅠB（各2） 地域経済論ⅡA/ⅡB（各2） 統計学基礎A/B（各2）	財政学A/B（各2） 公共経済学A/B（各2） 社会保障論A/B（各2） 都市経済政策論A/B（各2） 経済と会計A/B（各2） 公共経済学A/B（各2） 労働経済学A/B（各2）	日本経済論A/B（各2） 法と経済学A/B（各2） 企業経済学A/B（各2） 経済と会計A/B（各2） 公共経済学A/B（各2）
【導入科目群】 ●リカレント教育用科目 経済学基礎A/B（各2） 経済数学A/B（各2） 金融ファイナンス基礎A/B（各2） 実証経済学基礎A/B（各2） 統計学基礎A/B（各2）	◆金融・企業 応用ミクロ経済学A/B（各2） 応用マクロ経済学A/B（各2） 統計学A/B（各2） 金融経済学A/B（各2） 金融システム論A/B（各2） 実証ファイナンスA/B（各2） 企業経済学A/B（各2） マクロ経済学A/B（各2） 計量経済学A/B（各2） 国際金融論A/B（各2）	◆国際・地域 応用ミクロ経済学A/B（各2） 応用マクロ経済学A/B（各2） 統計学A/B（各2） 国際貿易論A/B（各2） 国際金融論A/B（各2） 開発経済論A/B（各2） 経済地理学A/B（各2） 地域経済論ⅠA/ⅠB（各2） 地域経済論ⅡA/ⅡB（各2） 日本経済論A/B（各2）	【研究指導科目群】 論文指導ⅠA/ⅠB（各2）[1年次] 論文指導ⅡA/ⅡB（各1）[2年次] 修士ワークショップA/B（各1）[2年次] 【特別講義】 特別講義ⅠA/B～ⅣA/B（各2）
【基本科目群】 ●研究基礎力 （QE筆記試験コースワーク科目） 社会経済学A/B（各2） 経済史A/B（各2） ミクロ経済学A/B（各2） マクロ経済学A/B（各2） 計量経済学A/B（各2）	◆政策・環境 応用ミクロ経済学A/B（各2） 応用マクロ経済学A/B（各2） 統計学A/B（各2） 環境経済論A/B（各2） 環境政策論A/B（各2） 経済政策A/B（各2）	◆応用ミクロ・応用マクロ・計量 応用ミクロ経済学A/B（各2） 応用マクロ経済学A/B（各2） 統計学A/B（各2） 上級ミクロ経済学A/B（各2） 上級マクロ経済学A/B（各2） ミクロ計量分析A/B（各2） 労働経済学A/B（各2）	【研究指導科目群】 論文指導ⅢA/B（各1）[1年次] 論文指導ⅣA/B（各1）[2年次] 論文指導ⅤA/B（各1）[3年次] 修士ワークショップⅠA/B（各1）[1年次] 修士ワークショップⅡA/B（各1）[2年次] 修士ワークショップⅢA/B（各1）[3年次] 【専門科目群】 修士課程と合同で行われます
【専門科目群】 ●研究応用力 （専攻分野コースワーク科目） ◆歴史・思想・制度 応用ミクロ経済学A/B（各2） 応用マクロ経済学A/B（各2） 統計学A/B（各2） 日本経済論A/B（各2）			

Ⅰ「修士（M.A.）プログラム・履修科目例（A/Bは省略）

「公共政策」「社会保障」をテーマにして、 修士論文を執筆する方の履修科目例	
M1（修士1年）	「経済数学」「実証経済学基礎」 「ミクロ経済学」「マクロ経済学」 「論文指導Ⅰ」
M2（修士2年）	「公共経済学」「社会保障論」 「論文指導Ⅱ」「修士ワークショップ」

※「修士ワークショップ」において修士論文中間発表

※「プログラム」とは、履修上の区分であり、修士課程のみで修了しようとする方は「修士（M.A.）プログラム」に沿った履修を、修士課程から博士後期課程に進学しようとする方は「博士5年（Ph.D.）プログラム」に沿った履修を行います。
※修士課程入学前に科目等履修生として「導入科目群」あるいは「基本科目群」のいくつかを履修することも可能です。科目等履修生として履修した科目は、修士課程入学後、申請・審査の上、10単位まで単位認定されます。

Ⅱ「博士5年（Ph.D.）プログラム」修士課程・履修科目例（A/Bは省略）

「金融」「ファイナンス」を研究テーマにして 博士後期課程を目指す方の履修科目例	
Ph.D.1（修士1年）	「金融ファイナンス基礎」 「マクロ経済学」「計量経済学」 「論文指導Ⅰ」
Ph.D.2（修士2年）	「応用マクロ経済学」「金融経済学」「実証ファイナンス」 「論文指導Ⅱ」「修士ワークショップ」

※「修士ワークショップ」において「研究報告書」中間発表
※この履修例は「修士（M.A.）プログラム」の履修要件も満たす